

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月26日

【評価実施概要】

事業所番号	870600384		
法人名	株式会社 ヒューマンサポート		
事業所名	コモドヴィータ下館		
所在地	筑西市二木成1530 (電話) 0296-22-0101		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年8月23日	評価確定日	平成20年3月7日

【情報提供票より】 (平成19年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年8月2日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	人	常勤19人, 非常勤4人, 常勤換算22.8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての 1～3階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	63,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (252,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,575 円		

(4) 利用者の概要 (8月23日現在)

利用者人数	25名	男性 10名	女性 15名
要介護1	4	要介護2	4
要介護3	6	要介護4	8
要介護5	3	要支援2	0
年齢	平均 84歳	最低 69歳	最高 92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	下館胃腸科医院、筑西市民病院、宮田病院、石浜歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者が家庭的な環境で共同生活を送れるよう、食事・入浴・排泄等の介助を24時間体制で見守るとともに、認知症の進行を和らげるため、料理・清掃・洗濯等をできるだけ本人が行なえるよう支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>前回の評価で課題となった利用者の生活状況を家族に報告できるよう広報誌の発行、利用者の状態に応じた調理の実施など、改善に取り組んでいる。</p> <p>今後は、職員の意見や希望が設置法人に伝わる体制づくりやホームの開放等などの課題の改善に取り組むことを期待する。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>外部評価の意義を職員一同で理解するとともに、課題について話し合い、改善できるところから取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)</p> <p>行政関係者や地域の人、利用者の家族を委員とする運営推進会議を2ヶ月に1回開催しており、ホームの理解や運営に関する意見や要望について意見交換を行っている。</p> <p>また、会議で出た意見や要望を改善できるよう努めている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)</p> <p>家族の面会時に苦情や意見等を聞けるよう働きかけている。</p> <p>苦情等の相談窓口や責任者を設置するとともに、重要事項説明書に明示しているが、市の担当窓口など、第三者の機関を明示するには至っていない。</p> <p>今後はホーム内の相談窓口ばかりでなく、市の介護保険担当課や国民健康保険連合会など、第三者機関の窓口等を利用できる事を説明及び明示することを提案する。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)</p> <p>地域の演芸大会に招待されたり、近所の散歩やスーパーの買い物など、利用者が地域の方々と交流を図る機会を設けている。</p> <p>また、毎月定期的にボランティアの来所があり、行事を通じて交流している。</p>
重点項目④	

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ご利用者様とご家族、地域の方々とふれあいを大切にします」の理念を掲げ、職員全員で理念に沿ったサービス支援にあたっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を日々の生活に活かせるよう入り口正面に掲示するとともに、申し送り時に唱和している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の演芸大会に招待されたり、近所の散歩やスーパーの買い物など、利用者が地域の方々と交流を図る機会を設けている。 毎月定期的にボランティアの来所があり、行事を通じて交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を職員全員で理解するとともに、課題について話し合い、改善できることから取り組んでいる。 前回の評価で課題となった利用者の生活状況を家族に報告できるよう広報誌の発行、利用者の状態に応じた調理の実施など、改善に取り組んでいる。	○	今後は、職員の意見や希望が設置法人に伝わる体制づくりやホームの開放などの課題の改善に取り組むことを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政関係者や地域の人、利用者の家族を委員とする運営推進会議を2ヶ月に1回開催しており、ホームの理解や運営に関する意見・要望について、意見交換を行っている。 また、会議で出た意見や要望を改善できるよう努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の設置をきっかけに、市の担当者と意見交換を行うなど、連携を図れるよう取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に日頃の様子を報告するなど、互いの情報交換を行っている。 また、ホームを訪問できない家族には、毎月の請求時にホームだよりとともに、利用者の生活状況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に苦情や意見等を聞けるよう働きかけている。 苦情等の相談窓口や責任者を設置するとともに、重要事項説明書に明示しているが、市の担当窓口など、第三者の機関を明示するには至っていない。	○	ホーム内の相談窓口ばかりでなく、市の介護保険担当課や国民健康保険連合会など、第三者機関の窓口等を利用できる事を説明及び明示することを提案する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はあるが、馴染みの職員による支援を受けられよう努めている。	○	利用者にとって馴染みの職員が居なくなる時の影響を考え、待遇などについて考慮することを提案する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	設置法人内で学習会を行い、職員の質の向上に努めているが、職員の段階に応じた研修計画や外部研修を受講できる環境づくりになっていない。	○	職員の段階に応じた研修計画を作成するとともに、外部研修を受けられる環境づくりを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と交流を図る機会を作るまでには至っていない。	○	ホームから積極的に地域の同業者に働きかけ、見学や相互訪問を行うなどの交流を持てる環境づくりを期待する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者等の状況により、いきなりサービスを開始するケースもあり、馴染みながらサービスを利用できる環境づくりには至っていない。	○	体験入所などの利用を勧めたり、自宅や入院先などを職員が訪問し、本人や家族との関係を構築できるよう配慮することが望まれる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴を把握するとともに、利用者が出番を作れるよう、好きなことや得意なことの場合づくりをしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者との日々の係わりの中で、思いや意向を把握できるよう声をかけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は利用者の担当介護員が中心となってケアカンファレンスを行い、作成しているが、利用者の家族全員から意見を求めるまでには至っていない。	○	面会の少ない家族に対し、情報の提供を行ない、介護計画作成に協力を得るとともに、意見を介護計画に反映することが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	4ヶ月毎に介護計画を見直すとともに、状態の変化に応じた随時の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状況や状態及び家族の要望に応じ、柔軟に支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所に隣接する医療機関に受診するときは、利用者および家族の同意を得ている。家族と相談し、かかりつけ医に受診できるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態に変化があった場合は、利用者及びその家族、隣接する医療機関の看護師により話し合いを行い、今後の対応を検討している。	○	ホームとしての終末期に対する対応方針を定めるとともに、家族や身元引受人への説明や話し合いを行うなど、方針を共有することが望まれる。 また、重度化に伴う意志確認書を作成し、家族等と確認書を取り交わすことを提案する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーを損ねない支援を行うよう、会議で話し合っている。	○	個人情報保護法の理解に努め、職員の意識向上のためにも学習することや個人情報の取扱方針を定めるなど、検討することを提案する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調や状態に配慮しながら、買い物や散歩など利用者の希望を聞いて、支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや苦手な食べ物を把握するとともに、状態に合わせた食事を提供している。 3階のユニットでご飯と味噌汁を作っているが、他のユニットは併設施設で作ったものを運んでいる。	○	利用者の力量にあわせ、職員と一緒に準備や片づけ等が行えるよう、支援することを期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりに合わせ、ゆったりと入浴できるよう支援している。 入浴できない場合には、清拭や足浴により支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴などに合わせ、植木の水やり、洗濯物たたみなどの場面作りをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の状態によって外出を支援するとともに、毎週水曜日は買い物の日としている。 重度化や職員の対応人数によって希望に沿った支援を行うには至っていない。	○	利用者の状態を見極めながら、希望に応じた外出支援が望まれる。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が帰宅願望や不穏の状況にあること及びホーム内はエレベーターを利用して出入りできるため、玄関を施錠している。	○	ホームが1階から3階構造で道路に面しているため、外に出ることが自由に出来ないという面を踏まえ、個人の尊厳を尊重するためにも施錠について工夫することを提案する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回の防災訓練は職員のみで実施しており、消防署の立ち入りは年1回である。防災マニュアルや実施記録を作成している。	○	地域の住民の参加、協力を得ながら避難訓練を定期的実施するとともに、設備点検・災害時の非常食を準備することを提案する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量を記録し、把握している。利用者の栄養が偏らないよう、厨房で栄養管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に花を飾ったり、採光などに気をつけるなど、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広々としているが、使い慣れた馴染みの品物を持ち込んでいる様子は見受けられない。	○	利用者の状態に応じて、家族などに馴染みの品物の持ち込みを働きかけることが望まれる。

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。